一今日祭司より十手指出候旨お催告等於任意ニ
処十手指出悉ク相違有之ニ付今許ニ申入若役中不残口宮ニ
應接処不都合ニ候断有之ニ帰刻書役并若宮
下神出来ニ候事ニ候

一今朝 北日 社人 品信 五十九人 従宮 子ノ刻 五信 三十一人
太祓 細男 合人 従宮 若宮 子ノ刻 五信 三十一人
五信 従来行礼 細男 作合 従宮 若宮 子ノ刻 五信 三十一人
今夕於顕純宅座席相集會

一清崎 顕純 保彦 顕之 任啓 右五人
一今夜一統ニ 物申 ニ付

顕純名字ニ訂正

太平十二日当番ニ付
中ノ一統ニ 振合ニ 候事ニ

一御前結番之儀者社家中十六歳以上不残以社可
番有之処昔時兼役之所司より川奉行迄十七人
以上十七人ヲ勤番ノ御籍ノ番組ニ書載有之ニ付名無
ハ右兼役ノ所司役ハ年中御神事ノ催神前ニ於ハ
會ノ指揮日代役ハ収納役儀ニ付御籍知之通
有之國ニ下向之儀ニ付見有之御勾ハ其ノ
其外ニ夫々掌領之役有之決而御前結番可頭課
右十七人書載之儀被廃従一番組迄一番組迄十六歳以上一列ニ従立ル様
改正之事

一世迄其組ニ辞ニ五位ノ次座ニ四位ノ仁ハ無位ノ
ニ無拠差障有之候節ハ代官名被廃位ヲ専ト沙汰
法座席ニ相立畢竟一組ノ所作ニ不得已其體裁ニ
ニ一組ニハ

佐沢ニ改ムル事

一 刀祢藉 是迄

一 番 誰 何

右之通ニテ社家ヨリ大字ニ認メアリ不都合ニ付
以来

一 番 何ト肋

何ニ帥

如右社家ヨリ大字ニ不相成様改心之事

前文之通改正ニ付如何哉及御相談ニ候間御勘考之上
御改革御掛中

きりニ社ニ而御改正ニ付
御改革御掛中

口状

別紙之御藉改ニ付伺候処遂熟考ニ処置ニ付
ニ而ハ不都合ニ付
ニ而ハ不都合ニ付

右一社寄合帥
置ニ付御報致候事

八月十日

上文通寄合ニ付元通御改革御掛中ヨリ
御達

一来ル廿日中清差出可申ニ付御調兼日ヨリ其御積リニテ同日御藉下シ七日
ニ而ハ不都合ニ付

廿日中ニ削直シ出来相成ル二日ニ廿二日ニ清書ニ仕上ル積ニ付清書御書日ヲ申掛兎モ角モ
中清差出ニ付上ル一日モ早ク清書ニ仕上ル積ニ付清書御書日ヲ申掛兎モ角モ
御家業ニ付ニ日ニ仕上ル積ニ付清書ニ仕上ル積ニ付清書御書日ヲ申掛兎モ角モ
如前文ニ日ニ仕上ル積ニ付清書ニ仕上ル積ニ付清書御書日ヲ申掛兎モ角モ
御家業ニ付ニ日ニ仕上ル積ニ付清書ニ仕上ル積ニ付清書御書日ヲ申掛兎モ角モ

右之通ニ付御改革御掛中ヘモ異存無之旨ニ付
御改革御掛中ヘモ異存無之旨ニ付

八月十日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 社家方、年頭之礼ニ来候事

右ニ者略申、書付ニ而相渡候事

一 日拝ニ参詣之者ニ而も御祓希ニ者、是迄之通相渡候事

一 社家方ニ而も、日拝ニ参詣之者ニ而も、御祓ニ付、初穂之儀ニ付、何ニ而も申間敷候事

十三日 午ノ大雷白雨

一 従今日正月迄、毎日ニ而も御祓、出来候ハヽ、可相渡候事

清綱 弥紀 信香 連之 知行 継上

右之通ニ候間、御心得之為、如此ニ候 以上

一 諸社禰宜神主方江、従公儀御触之趣、左之通ニ候事

一 諸社禰宜神主等、其所之作法、古来より之通、急度相守、猥ニ新儀を企、或者古来之作法を乱候ハヽ、可為曲事

一社事務ノ執務 部記 部記 部記 中清 校合シ畢ル

但午後休暑ニ付

一部記 部記 部記 今ヨリ 今迄ニ写シ畢ル

一社家分中清 筆校合ノ筆

一文政 改正ニ付文書ト 一冊 部記ニ付

一少納言ノ写(ママ)

一部記 部記 部記 社家分中清 筆

一午後 物置ニ

十八日 休日

十九日

一部記 部記 部記 今ヨリ 今迄ニ写シ畢ル

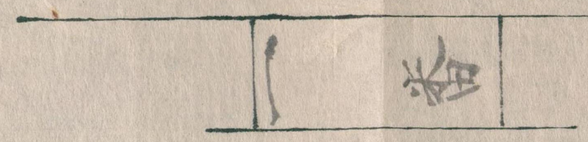
一社家分中清 筆校合ノ筆

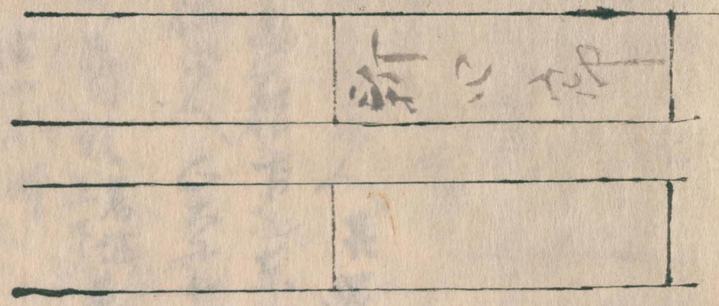
一文政 改正ニ付文書ト 一冊 部記ニ付

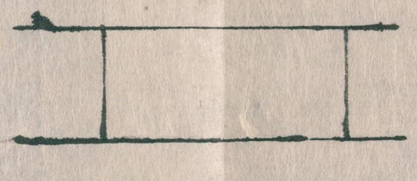
一少納言ノ写(ママ)

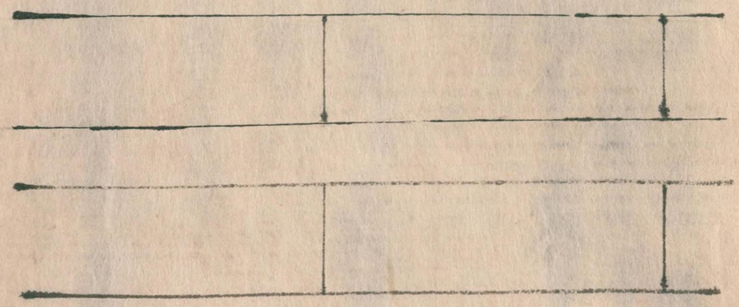
一部記 部記 部記 社家分中清 筆

一午後 物置ニ









国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

一社事務日誌 記録 御祓 中清按令
但午後休業ス

一今年分除所奇令ニ依申請書
但是迄事令ニ基キ御祓ヲ
ス事ナク事令ニ改正ニ依リ
ニ依リ改正ニ基キ御祓ヲ

十一時

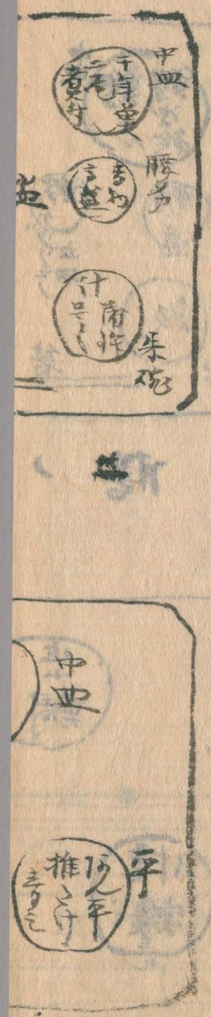
一今日御務ヲ為ス人 吉運送ノ荷
物事務所ニ西事務所ニ東西係ニテ
ヲ以テ於ス人ニ至ル代ハシ吹ノ
ニ於ス代ハシ吹ノ

十一日晴

一新刊ス代商況 第廿二日ヨリ事務
ス事

一午前第新刊ス代商況入来 吉
御方始テ見ル事ナリ 新刊

座席衆清崎敬祐保房敬之
三盃土器の次第如例
銚子 浮表者 加藤左衛門尉 自重芳初次ニ座席ニ着
利清
清崎ニ下年次納盃所ヨ代ヲ清隆ニ下ル了ヌ膳
朱



朱二尺

十二月午刻ヨリ雨降

一亘半刻ニ及ヒ雨勢不休ニ付テ猶予相待ツ処ニ
奉行西祝従四位重芳沢田権亘西祝従四位重
佐清崎若宮祝従二位佐顕祐哉神祝安倍
佐顕之輩名字略ス故新執筆代安倍
佐清修各着浮表指貫或指袴 相撫之上一方ニ座席衆大田祝従
佐清崎敬祐保房敬之座定ノ先打渡三方

一亘半刻ニ及ヒ雨勢不休ニ付テ猶予相待ツ処ニ
奉行西祝従四位重芳沢田権亘西祝従四位重
佐清崎若宮祝従二位佐顕祐哉神祝安倍
佐顕之輩名字略ス故新執筆代安倍
佐清修各着浮表指貫或指袴 相撫之上一方ニ座席衆清崎敬祐保房敬之
三盃土器の次第如例
銚子 浮表者 加藤左衛門尉 自重芳初次ニ座席ニ着
利清
清崎ニ下年次納盃所ヨ代ヲ清隆ニ下ル了ヌ膳
朱

朱二尺

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

見せ銚子

次中間三敷蓋次敷ノ高次御間三ツ盃盃重肴

教教子ニ而頂戴

次吸物椀 次一ツ盃

式肴 座席衆上着ヨリ初膳肴汁

盃所可出来肴取盛ニ而座入ノ者

吸物膳其節初膳三ツ組肴

出来ル迄ハ御酌人ハ座入ノ

出来ル迄ハ御酌人ハ座入ノ

一式三方供物銚子提献座上

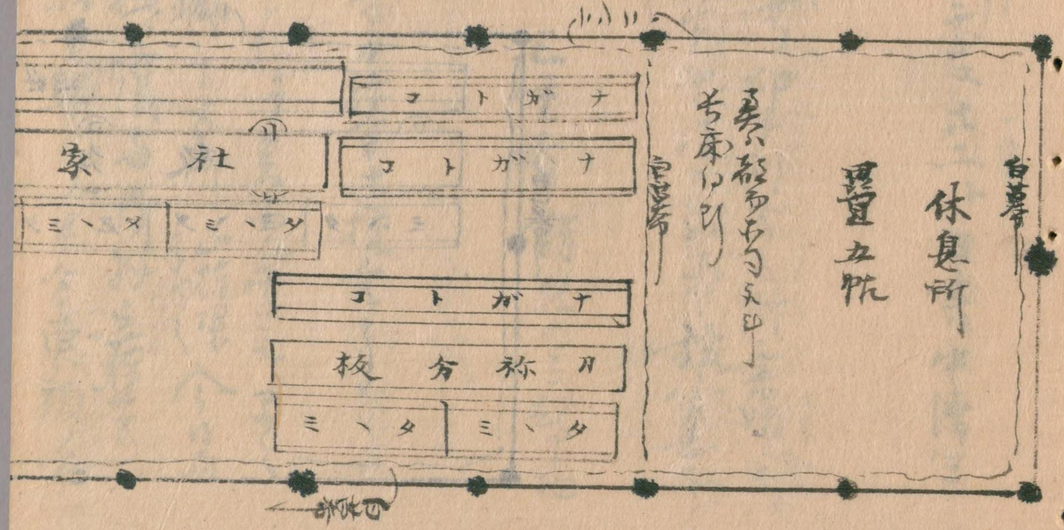
一式三方供物肴肴膳果ヨリ右ニ准ス

一座敷ハ上段ノ間ニ而教ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置

北面ニ而ハ東ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置

一式ハ上段ノ間ニ教ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置

北面ニ而ハ東ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置



一式朝会之節ハ上段ノ間ニ教ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置

北面ニ而ハ東ヲ上座ニ置其下ニ間ヲ二枚ツヽ重ニ而ハ下ニ置

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一中清執筆持参ニ而役馬務候、月　日ト有之ニ而
者如斯

一却而罷在ニ而待夫ニ而明夫ニ而割方勤者
掛合候ニ而已ニ而夫迄ニ而組貴而相済
各ニ候

一右ニ而裏表ニ而相認候ニ而相違無之候

一安政元申年閏五月廿日ニ而相済候事

一申年閏五月ニ而無之候事

一右ハ私共ニ而ハ不存候ニ而相違無之候ニ付
奥印仕候ニ而ハ不存候ニ付
奥印仕候ニ而ハ不存候ニ付
奥印仕候ニ而ハ不存候ニ付

三重青

（執筆者自筆）

（但シ年号ハ二重線ニテ消ス）

（朱書）

（朱書）

（朱書

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

嘉永萬延兩度
御藉役清崚之日記之字

終

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

御籍改日記

一嘉永五子年三月七日御籍改寺位階實名且故障之仁吉服日限
他國住居之輩吏ニ届出被取調若役ヨリ帳面洩等出十ヶ間敷
此時所司代ヨリ大夫即籍改ノ義達ニ可有之事也其時所司代ヨリ座席
觸ニ被申達ニ時座席觸元ニ積リ有之事且所司代ヨリ大夫へ十手
差出帳相摘ム者下知ニ可取掛候間内意申入置可然今度此事ノ
無之以来神事ヲ以達
有様可改事

右御籍改之儀者昨嘉永四年亥年十月廿七日神主孝久辞職同十八日迄
久轉補寺被改也

一同三月廿三日御祭前官位申上輩各宣下同廿九日必顕亭ニ所司代

一可清入来之會所之十手差出帳并大直一帳半紙五折墨書共二十丁之内
二丁等之對業持之地重誠社祀清崎之事

三十日

一昨日所司より十手差出帳持参仍必ず社人亭ニ内會當社重誠社祀清等先各
認置之下祖一之巻ト十手差出帳ト引合来ニ而一巻之名前ニ下一番衆之仁
一ト書十番衆之仁ハ十ト書各分畢下祖人数別付ニ而合相談之上二番
祖何人有余日ト相定之事

一兎代十六未満之人一人祖入ニ而相談之上重誠社ニ而
一来月十日奈良社務宮保暁并宮保職ニ吉眠故大迫清書之積り弐十日後之積
弐十日後ニ保職ニ除弐通下祖ニ而無益ニ一應御籍奉行中迄内談申
可然哉ニ申入ル条如左

一清書日限ニ弐日比之御積りニ弐勘定ニ而
一清書ニ而共御用之ニ而ハ何弐勘定ニ而
一清書ニ而共御用之ニ而ハ何弐勘定ニ而
一清書ニ而共御用之ニ而ハ何

[illegible]
[illegible]
[illegible]

二日

一今日下役共掛ル各々集営重誠
勘兵衛清綿清貫両人

三日

一今日下役共掛ル各々集営重誠
勘兵衛清綿清貫両人

之名前ヲ認メ下役之名前ヲ列合集ニテ手ヲ下役一人ニ巻名前ヲ下ニ書之
人数相調事 営吉晴日吉之字吟味
右御帳面共ニ相調事 右差出帳面之
置事 右差出帳面之処差出帳面之
并帳一冊勘兵衛ニ渡ス事 其上ニテ勘帳ニ冊校合畢退散

四日

一日上参集債上下手帳校合相違無之事重誠ヨリ祢宜中清ヘ渡
出事大工ヨリ教頭純丈社家方中清ヨリ職人頭ヨリ大工ヨリ教頭ヨリ
御籤筒政久兵衛ヨリ受取事 入来諸事
指混去何モ世話致事

五日

一月上参集殿ニ而記文中清ニ賜ハル事ニ付キ五日中清ヨリ参ノ

六日

一月上必ス参ラン今日宮ヨリ中清ヨリ学校令ニ付キ校令ヲ校令ヲ

ト云ヒ来ル一件ニ付キ参事

一今日御籍奉行人ヨリ左通リ被仰渡ノ事

御籍奉行指揮

七日

一今日寄合中清被召ニ付陰陽寮ヨリ勘文ヲ以被申越ノ

旨ニ付勘文被差由右写見来

一昨日ヨリ年始大来云来九日御籍改ニ付

一職中成美入来月上業用ノ事

右職中一業内ハ勿論ニ職中ハ御籍ヲ

座席元ヨリ正徳記ニ昨日ヨリ御籍ヲ

八日

一今日御籍奉行両人被行向御籍東西行北面ニ被直見代本宮御棟之

風ニ而右三所ニ置狭筆ノ座畳上ニ着机ヲ扱膝扱下ハル程ニ高リニ

被設之右畳ハ昨日座席畳ヲ取寄被設筆等ハ

別ニ板長文ニ敷ヲ二枚敷シ仍更ニ

イヌカヲ八木成筆一前ニ長床机ヲ置ヲ

参会ニ而ハ古御籍座相ハ西ノ方ニ四百枚札場ニ

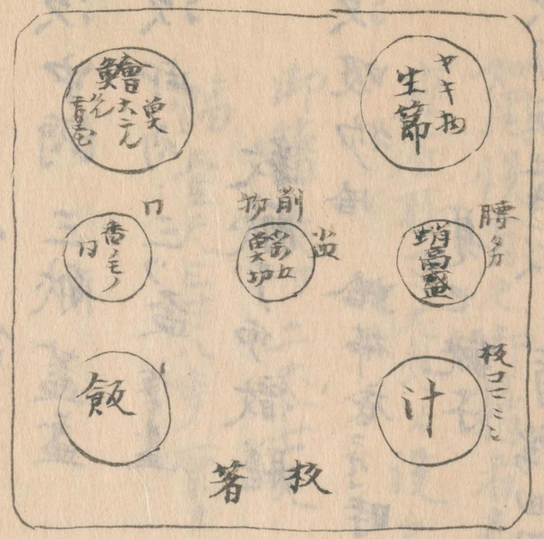
支ヨリ東二百日祢札社務方ヨリ金襖後ヨリ注連ホカレツカヌ様ニ設之右御帳ニ有之通ニ設之幕一帳ヲ以右東籍二枚ヲ以指揮ニテ左右ニ八人本設シ幕南北面ニ後東二百休居ホト有之仍社務幕仕切ヨリ上幕六張ヲ用ヒテ幕ニテ指揮社務ハ下ヲ用ヒテ

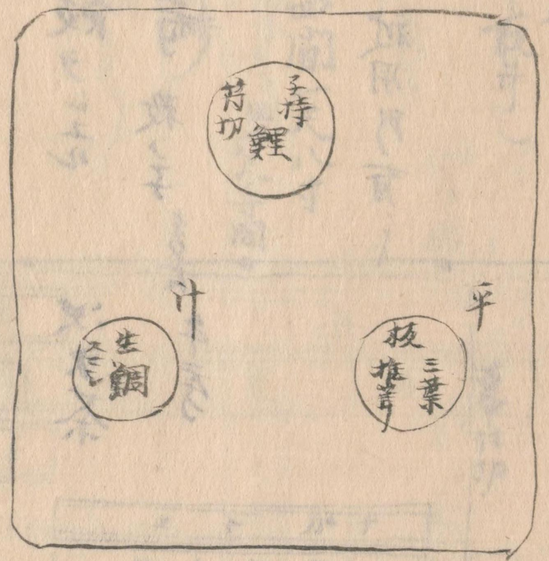
御籍屋ヨリ受取ル事

九日

一 今日御籍改清書也時辰正卯刻時分觸有之仍各矢葉浄衣指貫烏帽子助筆ヲ以浄衣上下ニ御籍秘抄ヲ指貫住ニ入ル仍座席次中合指貫着用

一 御籍奉行正祢宜周防守政久新宮祢宜陸奥守氏祖座席衰越中守必顕阿波守重誠筑後守顕純無之右近丸大夫清崎筆者當時狩筆志ヲ侍ル城助筆誓定





朱椀

八五郎大夫祢國各相揃之上着座一方政久一方氏祖自余年次座定ル先

引渡三方三盛土キ 賀ノ昆布 各少角ニ 銚子 氏小童 勝栗 加年嘉饗ニ下

自政久被申清崎ヨリ取引可清納之次出膳

見セ銚子

次中酒 三献 蓋盃　次飯ヲシユル

次御酒 三ツ盃 肴盃　重肴 数ノ子 多古牛房

数献ノ御撤膳

次吸物 蛤 椎底ニテ時雨蛤ヲ被用ル有ヨシ

見セ銚子

次ニツ盃 土キ一枚 肴鯵細切 松梅立物

自上座初下臈ヨリ呈引納盃

出茶 起座ス向 御籍屋

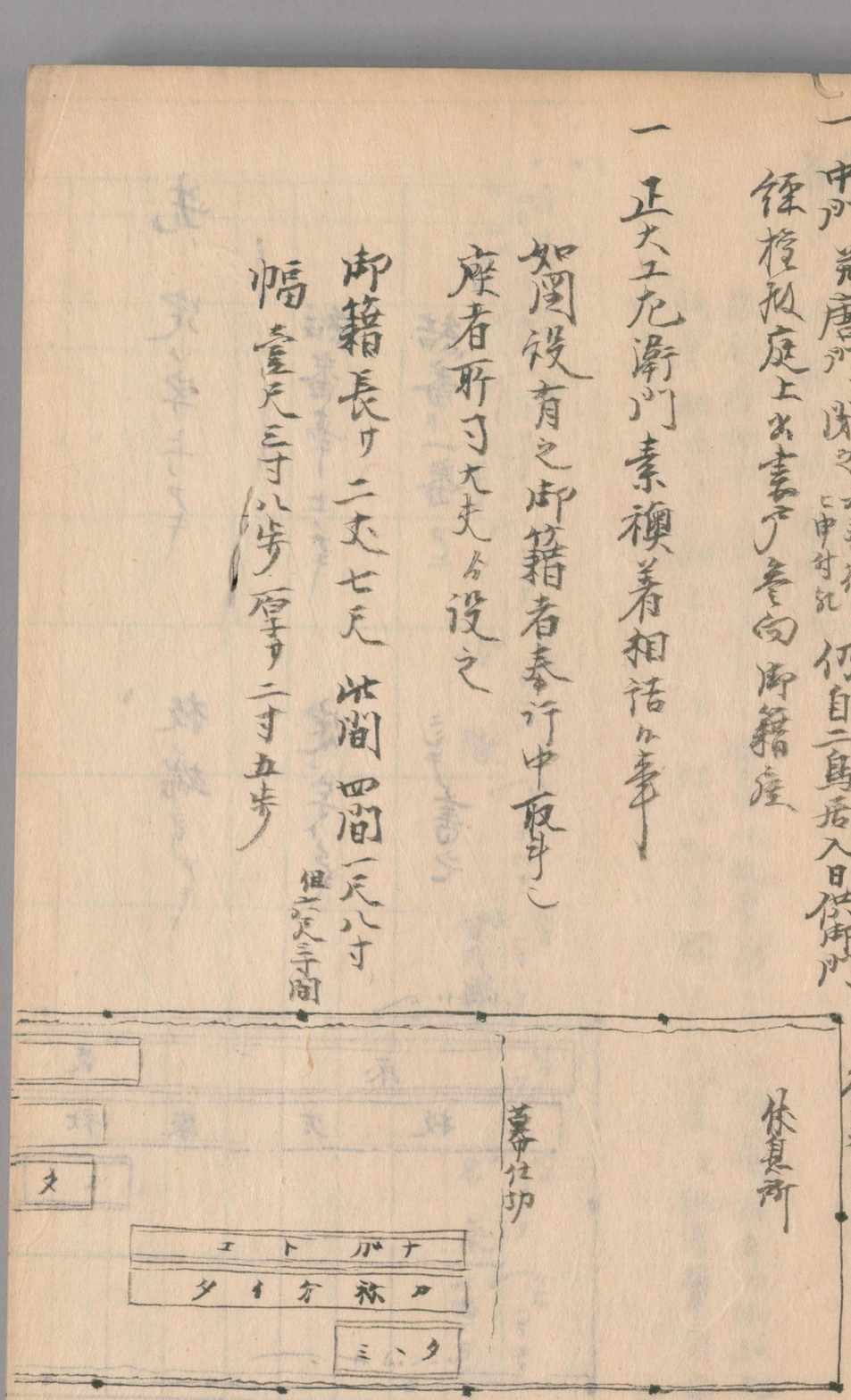
一 中門 差唐門 閉之 右奉行ヨリ申付ル 仍自二鳥居一入日供御門

緑檀板庭上ヲ書ク 差向 御籍屋

一 正大工左衛門 素襖着相詰ル事

燭役有之 御籍者奉行中取ヨリ

庭者所司大夫ヨリ役之



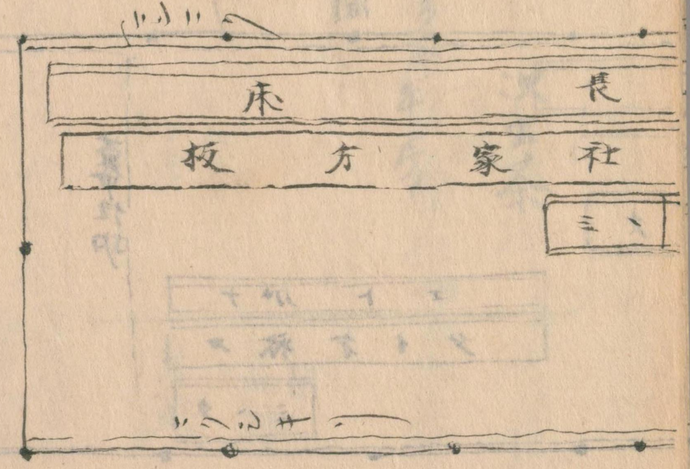
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

先 定ノ字上ノアキ

結番事上ノ字 定ノ字ト等

結番十一番ノアヒ ミヨテ書之

板端ヨリアキ



如図糸卦ノ入書之一間一間ノアヒダナレ 上ノ番ノ末ノ人ノ次ノ助ト次ノ番ノ書ノ下ハ字無之故 格好宜也

糸卦者社中ニ兼而拵有之 會奕或 執筆部屋ノ小ノ棚ニ有之ヲ 何レ執筆預ナルヘシ 今度前日迄不知処可免

| | | |

内法惣長サ一尺三寸八分
四方ヲ于木巾サ五分　幅一寸三分

右所定上ノアキ一寸六ノ未ノ人ト　右ノ字ト年号ノアヒ三寸　年号上ノアキ一寸六ノ
年号ヨリ板ノ端ノアヒ七寸五分ニ

刀禰籍

長サ一丈三尺三寸　巾一尺一寸　上一寸アキ
厚一寸五歩ノ　板端ヨリ四寸五分アキ所ニ　定ノ字書ス

上二寸三分
定ノ字ト次ノ行一寸五分ニノ刀称結番幸書　上一寸
刀称結番ト次ノアヒ二寸二分ニノ一番書之
一番ヨリ二寸アキ刀称名前書上ニ刀称上ヘノアキ　ニテ書上ニ刀称上下刀称ト次ノ
間一寸五分アキ下刀称書之下ノアキ一寸三分刀称名ヨリ次ノ番二寸アキ番間
一寸五分ニ下ヨリ断ニ一番刀称名ヨリ四寸五分アキ上一寸五分アキニノ右所定
処幸書之右所定ト年号ト間二寸上一寸五分ニテ年号書之年号ヨリ板
端迄三寸五分ニ

一中清年号何月　日ト書若出當日何日ト数書之二英ニ日附
一今日御籍座参着候刻　大ヨリ一番刻方諸色勤方組別ニ
見込甘書始被是辰下刻過午刻迄七間宮岡祝迄和午於休息
所ニ飯

焼物 新鮫 半切　　泰保生 小竹 焼

御酒　肴物 梅 御

一 執筆床ニ名ニ校合ス

一 申下刻無事ニ列校合了ニ而八人宴席掛ヶ

御籍東上ニ而ハ御酒ヲ勧ム 西上ニ而ハ振向掛ケル間御籍ヲ先祝酒座ニ

諒東ニ而退御籍上ノ方ヲ中ノ名ヲ出ス未ノ御籍座東ニ入上ノ方ヲ次第ニ

廻シ中ノ名ヲ入西ニ掛場所下ヘ見代ニ名ニ改直シ其上ヘ先置夫ヨリ惣

掛リニテ例ノ如上掛ケ 千時雨天ニ付テ政久ニテ献洗濯幕ヲ包其上ヲ

合羽ニテ又包ニ而合羽袖ヘ、夜ニ至リ品川棚幕ヲ献ス 幕ヲ

八人肩ニテ引廻シ我也次ニ口祢ヲ献ス 右ヲ多数ヲ各ヲ事務所ニテ

自由掛引本如也

右ハ退散千時幕座ヲ撤ケ 社時ニ

菊事業滞無ヲ終ル

一 今日筆者役見ル儀兼日仍頼清崎 筆者ノ内仮ヲ設ケ

一 内宅ニ而ハ御ヲ肴ニ而ハ行向黄昏也 社時積上下各ヲ持ケル

前ノ如朝座定出膳

焼物 坩ノ入ル

汁 板ニ

平 半平 椀ニ

盃ニ而

平椀

箸

次吸物　壱鉢

肴　三ツ盛

一　鯉膾　生姜　酢

　　数取り各々勝手次第取り候事

一　今日必顕縣之社頭当日参也雖然座席裏三ノ出勤ニ而用放当日代勤ニ

御籍座へ被詰先年都顕縣ニ五月五日当日参ニ而処階下後見ニ出勤当日代勤

此准拠ヲ以被勤可然ト顕純所存也　此外当日参事御着器掛御祭之節

当番転供トイヘトモ代勤ニテ参籠詰被致是亦同断

一　御省略中ヨリ社席完ヘ御参候節代官宅石ノ料　壱俵宛被下候事

一　筆者勘第ホル墨ヲ義ニ千筆ニ対物一対ヲ為料銀一両ヲ為ニ

一　所司ヲ始古数枠ニ年ニ数七ケ日ト書ニ年当ノ賄ヲ料

ヲ為ニ一社従ヲ為ニ一社従ヲ為ニ一社従ヲ為ニ一社従ヲ為ニ一社従ヲ為ニ一社従ヲ為ニ

年ヲ分ケ為ニ右一座ニ九人ニ帰ル

ヲ為ニ年ヲ限リ為ニ

一　文書筆擔ノ価社ヲ為ニ昭ニ縣ヲ為ニ紙ヲ為ニ年ニ

一　日筆注ノ為ニ筆ノ代ヲ為ニ年ニ

　　右条々若代ニ当ヲ為ニ

一　筆紙墨四人ヲ配ル

一　ヲ為ニ文書筆入ヲ為ニ

西例を参和の条精と云ふ是の如
業の事二階東の棚と上玄有しを以此
進達す者

一文書等健預り題紙糊を以事也
右為後日書記事

嘉永五壬子年四月

座席衆

越中守正則
阿波守重成
筑後守頼疵
近江大清崎

陰陽日時勘文

御籍奉行 正祢宜 西位下周防守政之 新宮祢宜
筆者当時 西位下志摩守季城 助筆 評定 正四位下 西位上陸奥守兵祖
座席衆 正四位下越中守正則 正四位下阿波守重成 無清崎
正四位下筑後守頼疵 正四位下 従四位下 國

萬延元年庚申年四月九日清書

御籍改日記

一昨申年十月　往久辞職政久補任并御籍改之儀五舎集会
席等治定取可差出座席衆中へ達之事
月　日權祢宜保盛補任然ル處年内余日ヲ以且先例ヲ有之
以明年御改之有之治定依旨条前官達有之
一三月九日頃可差出候来御籍改ニ付催之書達有之
一九日　清崎亭ニ於テ衆中内相談大来　午時座席衆　清崎
清康　清得　顕紀　名代在府
来月三日より下組これ掛りよ稽りよ書一依

中入与奉如左

清書日限幾日比之座積り勿論清書
之内往来文通中入事

二日

一年始勤之事、只今参賀之外、礼事違之
席順変、考文之御年寄之事、九日之
一清書九日治定事、明三日下絵ニ而掛り
名和百変、中入事、御年寄之通
三日

一今日下銀取掛各集、清兼清詩
集ニ而清兼清詩、清清績吉著可清亭
下帳ニ十年差帳ニ校正了数
四日

一日上集優下帳校正遣ス、清兼刀禄ニ清得
中清義掛
一奉行義父清基ニ事優上下幸学ニ而清兼
安継正義
五日

一日上清秀正ニ不来

六日
一 日上今日中清出勤校合ニ而参出ス事
七日
一 不勤 ○事義久今日御改清ニ而
一 参合ニ中清ニ老而今日ヨリ清得ニ而、掛ニ而
一 執筆相見清康、清得ニ而
九日晴
一 今日御籍改清書時辰正刻時分ニ
執筆勤ル事ニ而衣上下ニ而
奉行義久 清基 座席衆 清崎 清康 清得

執筆保道 助筆 清谷
着座一方義久 清基 一方清崎 清得
先引渡 三方三度土器ニ而 各小角
次本膳二ノ膳以下如例 銚子 陸上ニ而
一 取引ニ而納盃ニ而後参向ニ而御籍屋敷上刻也御籍改ニ而設盤
嘉永度依例ニ
一 参着早ニ而機ニ而列ニ而六間条出勤ニ而執筆休息ニ而校正
一 関刻ニ而惣出勤ニ而校正了ニ而休息
一 午後八人出役ニ而未取諸事
一 今日筆ニ而相見等ニ而依頼清康ニ而

一御定之事
上卿如令執仗
近衛陣
一南方略事
一文書等擔
一筆墨之人
一文書等鍵
千時座席
正四位下清岑
正四位下行
正四位下藤
正四位下清岑

萬延元年酉年

御籍奉行
従五位上菊充重義
正四位下行清岑

右嘉永度萬延度御籍改之記
元治元年子年御籍改座席
令借用写之者也

享和二年戌二月
文化元年子二月
御籍改覺悟之記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

二月十八日御籍改下組二分一祢宜祿顕亭 工本人ハ充顕ニ座席裏朝飯後集着用讀上下 但初日ハ昨日案内有之人数如左

清立 経堅 依故障不參 紀季 保要 壽顕 依社用不參

一兼日被相觸十手若役中ゟ差出之帳面ハ位次等年齢ホ之人数引合セ右遣之処有之候ハヽ若役中相招逐吟味 但ホ併之上書留ル如左 去ル化ホ之年右ゟ仁ハ据置ノお礼奉

一社司五一人氏人正面位下六十六人 従四位上二十人 従四位下三十一人 正五位下二十四人 従五位上二十五人 従五位下七十五人 無位九人

合三百一人 内 職方十六人 内 社司一人引残而弐百八十五人 外ニ未成一人 内社司二十人 神主 但十六人 家役 十組十三人ツヽ 十組十二人ツヽ 但未満共

但右之外前職三人ハ不組入ニ安願ハ猶之事ニ
右之通ニ各退出申刻計
一昼飯焼物小鯛ニ而ハ仮汁鯛ニ而ハ
一種強飯ニ而神酒
十九日
一祭仕各斎子ニ而集稽着用
一十年ニ之差出帳面撰格書葉
一神主組ニ七人ニ而人数別配ニ吟味之上横帳ニ書取
一社司二十人
一正位下六十二人内七人ハ役家子ニ而神主ニ組入之

自正税宜至奈良祢宮三人宛
自奈良祝至氏神祝二人宛
一従四位上十九人内二人家子神主ニ組入之
自正祢宜至奈良祝一人宛　氏神祝一人
一従四位下三十人内五人別当家子ニ而神主ニ組入之
自正祢宜至擢祝二人ツヽ　自大岡祢宜至賀茂神祝一人宛
新宮祢宜二人自新宮祝至氏神祝一人宛
一正五位下三十一人内一人家子神主ニ組入之
自正祢宜至新宮祝二人宛　自大田祢宜至氏神祝一人宛
一従五位上二十五人

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

自正祢宜至大奈良祢宜一人ツヽ自大奈良祝至氏神祝二人ツヽ

一従五位下　内一人家子神主、組入之

自正祢宜至庁岡祢宜三人宛　自庁岡祝至大田祝四人宛

自若宮祢宜至大奈良祝三人宛　自沢田祢宜至氏神祢宜四人ツヽ氏神祝三人

一無位　二十八人　内未満一人

自正祢宜至大田祝一人宛　自若宮祢宜至氏神祝二人ツヽ

右相済ミ而退出

一昼飯焼物ニて　菓物　飯　汁　蛤　香物　煮酒　一ケ斗　肴二種

九日

一朝飯後各庁可亭、集

一昨日相調ル人数割之帳面ト十手人ヨリ差出之帳書集之帳面ト引合セ記ス　朱ヲ付調ル　右之上右人数割之帳面ニ此一番一箱ツヽ座席ヲ立ル　尤朱三帋一二三ケ所ヲ校ス

右ヲ済退出申半刻ニ

一昼飯　焼物ニて　汁　雑子ニて　飯　香物　酒　一ケ斗　肴二種

十一日

一朝飯後可亭、各参集但誓堅保要不参

一中清之草案肩書ヲ出来也

一昼飯後酒未如差図

十二日

一 朝餉後祈可亭へ参集

一 本組之横帳清書半分余半之上退出申刻半

一 昼飯焼物こち吸物 汁 朝餉後 香物 酒 汁 肴二種 取合之飯

九三日 休日

九四日

一 朝餉後祈可亭へ各参集

一 中清書写畢 日称中清書能写校合 汁 飯 香物 酒 汁 肴二種

一 昼飯 煮物 汁 飯 香物 酒 汁 肴二種

九五日

一 朝餉後祈可亭へ各参集

一 昨日之中清書校合之上退出未刻半今日之申刻相済残紙墨等不能勿論

九八日

一 今日去籍清書也 尤昨日祈可亭へ参集 同断

一 寅半刻之時分朝餉後卯上刻参集着用俗衣葛袴 奉行 禄久要清座席 衆清立紀季保要壽顕 歳年 助業保永 各本禄之上 先三方 組付 三ツ盃 献 銚子 俗衣 鱠 大こん 焼物 吸物 汁 飯 小田切物 高盛鮭

月番ゟ　二　平串うるいこと焼物（ゆもの）（ごんば）汁（しる）
又包（またづつみ）　中陰三献次三ツ重肴三種飯肴菓子
御神楽（おかぐら）拵猪（こしらえい）次吸物（すいもの）給（たまわり）又包（またづつみ）三方一ツ重ニ盛（もり）次名（つぎな）起（おこし）
御籍屋（おんしゃくや）ニ系向座列（ならびざ）ニ

一　中門ヲ閉（とざし）御籍屋（おんしゃくや）前座ニ白幕ヲ張（はり）執筆（しっぴつ）
敷前ニ長床（ながとこ）ヲ置（おき）東上北面也刀祢（とね）之介（すけ）勤筆（つとめふで）之座（ざ）ハ長床
設之（これをもうく）猟等（りょうら）之後之方東上北面也東之二タ間幕（まく）帝仕切（みかどしきり）
五位（ごい）ヲ表（おもて）休息（きゅうそく）間（ま）トス次鉢（はち）菜（さい）座（ざ）ニ置（おく）候（そうろう）ハヽ
品（しな）書（がき）ヲ以（もって）青（あお）三献（さんこん）肴（さかな）ヲ（を）
一　執筆（しっぴつ）為（なす）ニ氏都（うじすべ）後（のち）右伝（みぎつたう）　右（みぎ）ヲ（を）
執筆（しっぴつ）ヲ（を）ハ後也

倶（ともに）ニ発（はっ）ス祢宜（ねぎ）ヶ殿（どの）之内被（こうむり）祓（はらい）事（ごと）
内（うち）ヘ被（こうむり）祓（はらい）ヲ（を）ハ別（べつ）ニ奉（たてまつる）ヲ設（もうく）ヲ及（およぼす）ヲ
一　活籍（かつせき）半分（はんぶん）清書（せいしょ）ヲ済（すまし）休息（きゅうそく）之間座（ざ）ニ元校（もとあわせ）又不残（のこさず）
右（みぎ）ヲ（を）ハ校合（あわせ）之（これ）ヲ（を）ハ但一帖（いちじょう）ヲ清書（せいしょ）ヲ右（みぎ）ヲ（を）ハ済（すまし）
一　清書（せいしょ）申（もうし）刻（こく）ニ右（みぎ）ヲ（を）ハ済（すまし）ヲ右（みぎ）ヲ（を）ハ神（かみ）ヲ掛（かけ）ル人（ひと）ヲ（を）ハ人（ひと）ヲ（を）ハ
退散（たいさん）ヲ（を）ハ祢宜（ねぎ）ヶ殿（どの）ヲ（を）ハ夕飯（ゆうはん）ヲ案内（あんない）有（あり）之（これ）ヲ（を）ハ各（おのおの）ヲ（を）ハ集（あつめ）右（みぎ）ヲ（を）ハ揃（そろえ）ヲ（を）ハ上（あげ）飯（めし）
二汁四菜　焼物（やきもの）ヲ（を）ハ（は）ごし（こしらえ）ヲ（を）ハ（は）給（たまわり）ル（る）ヲ（を）ハ（は）汁（しる）ヲ（を）ハ（は）こち（こちら）ヲ（を）ハ（は）
引物（ひきもの）半（なかば）　右（みぎ）ヲ（を）ハ（は）吸物（すいもの）ヲ（を）ハ（は）給（たまわり）ル（る）ヲ（を）ハ（は）
献（さかずき）ヲ（を）ハ重（かさね）ヲ（を）ハ肴（さかな）ヲ（を）ハ三種（さんしゅ）ヲ（を）ハ飯（めし）ヲ（を）ハ肴（さかな）ヲ（を）ハ菓子（かし）ヲ（を）ハ

享和四甲子年二月十一日改元
文化

一二月六日社中へ紀季ヲ被招法籍改之儀急ク右御礼
被被遣ル事ニ十七日迄ニ申請出事ニ候処及本懇之処日数モ
多候ヲ以テ不足之旨被申候仍
事ニ候ヲ出来ニ候ニ及本懇之処日数モ有之
事ニ候ヲ出来ニ候ニ及本懇之処日数モ有之
当所ニ而ハ是又旧冬

被補神主於右也

一七日今ノ紀季ヲ社中へ及召出事ニ十日ヲ
限リ御礼ニ罷出ル筈ニ候処急ニ右御礼被ヲ入筆
候間十日ヲ限リ名前差出之候急ニ右御礼被ヲ入筆

一座席宛無人ニ付兵部直一加入ニ候処堅ク
辞処筆紙ニ難尽事

一所司ヲ以テ御礼ニ来ル十日限リ右ニ仍テ十日ヲ限リ御礼ニ

十日

一御籍改ヲ以テ御礼ニ来ル可ク縁頭ヲ以テ座席宛ニ
着用候上ハ仍初日ニ出ル可ク昨日案内有之人数ニ
紀季 保要 兵部 壽顕 直一 堅

(彩カ) (依社用ニ) (依ヲ以テ) (依ヲ以テ)

一今般之子文庫ヶ庄廉就ニ而之第出ニ而之
被立候ニ付則取調候処ニ而之祖拾人ハ取調
一先人教ハ祖ル
社司六一人　氏人正四位下六十六人従四位下
三十七人正五位下二十七人従五位上六八人
無位六八人但未満一人共
合三百三人内職方十七人引
残而二百八十六人
内
社司六一人神主祖ハ十六人家役家子共

九祖十三人ヅヽ十一祖十二人ヅヽ
但右之外前職四人ハ不祖入ニ而安顕ハ給田ヲ雖常ニ不顕ス
一正四位下六十六人内故障四人引残而六十二人従四位下三十七人内右障二人引残三十五人正五位下二十七人
従五位上六八人内右障二人引残而六六人従五位下七十七人内故障二人引
残而七十五人無位六八人内右障四人引残而二十古人
一社司六一人
一正四位下六十二人内六人歟役家子ハ神主祖ハ祖入也
自ニ祢宜至ニ禰良祝三人ニ而自ニ祢宜至ニ氏神祝二人ニ而
一従四位上十六人内三人

一自正祢宜至新宮祢宜一人兎　自沢田祢宜至氏神祝一人兎

一従四位下　三十五人内五人

自二祢宜至新宮祝二人ツヽ　自大田祢宜至氏神祝一人ツヽ

一正五位下　二十七人

自正祢宜至権祝二人ツヽ　自片岡祢宜至貴布祢祝一人ツヽ

新宮祢宜大田兩宮二人ツヽ　自新宮祝至氏神祝一人ツヽ

一従五位上　九六人

自正祢宜至新宮祢宜一人ツヽ　新宮祝二人大田兩宮一人ツヽ

自若宮祢宜至奈良祝二人ツヽ　自沢田祢宜至氏神祢宜一人

ツヽ氏神祝二人

一従五位下　七十九人内二人家子神主入祖入之

自正祢宜至権祝三人兎　自片岡祢宜至貴布祢祝四人兎

新宮兩宮三人兎　自大田祢宜至氏神祢宜四人兎　氏神祝三人

一無位　六四人内未備一人

自正祢宜至奈良祝一人ツヽ　自沢田祢宜至氏神祝二人ツヽ

右人数調下知ホ出来退出申半刻計

一盃飯焼物汁菜物　飯着

一御湯殿ニ而一献　肴五子ノ焼　同生ノ

一御上ニ而一献　肴五子ノ焼　同生ノ

一御手伝料ハ右座席ニ而内談之上甚三郎ヘ渡ス

惣供平ニ而ハ供米菜料義供之義ハ酒肴

一 本二寸混ノ被申候ニ付各中渡ス酒ヲ半ツ、飯米ホゼ一弐合
和ノ被渡ス也

十一日 各例刻集稽古開

一 御籍組人数割帳ヲ来ル廿日籍下調帳ヲ
右出来之上退出可申事

一 壱俵焼物炭 汁 ㊞

一 酒二升 青 ㊞ 汁 ㊞

十二日 各例刻集 不参ノ輩兵部 壽郎

一 御籍下調帳ニ此一冊一箱ヲ座席ヲ立ル玄米一二三升ヲ渡ス

一 申請之草案ニ取掛ル

一 今申刻前十手ヲ差出之人数書取寄可ヲ以被申渡則調ル

一 刀祢人数書出ス

右調ホ半ハ去冊遣出申半刻之

一 壱俵 青 ㊞ 汁 ㊞

一 青俵 ㊞ 汁 ㊞

十三日 各例刻集 不参保要

一 十手ヲ差出之人数書ヲ調位次ヲ年齢ヲ
遠之処有之ヘハ若役中ヲ招遂吟味人数調ル海之上

一 手ヲ横帳ニ書留ル玄他ヲ住場之仁ハ吾所ヲ玄記ス

一 刀祢人数書調ル海

一御籍草案出来校合ホ右済
右右筆退出酉刻斗
一昼飯 賛お生ものへ 汁 塩たい
酒一ケ 肴 生ものくるい 賛メ 日たこどうふ
十四日 各例刻参集 本条直一
一御籍中清ニお礒ニ筆者 紀季
一十手人名前当之人数按帳ニ書集ル
一刀祢参出来
右右筆退出酉刻斗
一昼飯 賛物 鮭 汁 申を按帳ニ
酒一ケ 肴 海老 日ざこうに 飯 秀
十五日 各例刻参集
一御籍中清過半右済
一当 御籍下調帳今一冊書取ル
一十手人数書帳出来校合右済
右右筆退出申半刻斗
一昼飯 焼物 生ものいり上 汁 うなぎかば 飯 秀
酒一ケ 肴 日ざこ
一昨日ゟ為験之由薬被右候
十六日 各例刻参集
一張籍中清出来也草案差産帳ト校合畢

一日祢中清出来也草案ト校合早筆者直一
一両社務ハ退出申半刻計
一登仮　平　燈花長芋　椹茸　三ツ茶鮫　汁饅　飯汁二ケ
　青　玉子ノ硬氷豆腐　梅漬ノ類　海苔　汁奥ニけき　高野豆腐
十七日　各例刻参集　本番共勘
一中清校合了各加表包上書ニ社家分ハ祢宜ト書也但
　祢ハ社家分ハ下ケテ書之
一中清又ニ校合五部ヲ写ス、表紙ニ別紙評議ノ趣ヲ
一後考ニ書面類、纏メ座席中之箱へ入納

一玉美濃紙一帖　半紙　五帖　墨三挺　筆　三對
　右筆日被相渡
一残紙弥墨筆未納方也
一銀三拾八匁
　十四日ヨリ十七日迄日数八日分　湯入用
　但一ケ日四匁七ツ五厘ツヽ
一白米三斗三升六合
　右同断　但一ケ日四升弐合ツヽ
一八匁八分　青代
　右同断　但一ケ日　三匁七ツ五ツヽ
一拾匁　湯代

右同断一ケ日壱俵ツヽ

飛ノ五拍子ノ下

右書付取引ノ心得ニ而差置 堺屋

右御用迄ニ而未割計 壱分

一壱膳 煮〆 留椀 半膳ニ付人ニ 汁 壱

青ノ物 同断 ニ付

十九日

一今日ハ藩務清書也 依一昨夕方取引

一寅半刻ヨリ時字鶏鳴 仍テ卯上刻 所々亭、各参集

浄衣着用 御籍東行 信平 勇保 座席奥 紀季 保要

氏都 壽顕 直一 執筆 保永 執筆 亨注 各右椀之上

先三方 組付 三ツ盃 肴 銚子 浄衣 加

次朝飯ニ汁七菜 鱠 焼物 鰯

小皿鱗切 高盛 たこ 門 平 半かい 人ニ 焼物 ハリ

汁 奥 見ヨ銚子 中酒 三献 次三ツ盃 肴 三種

奥 飯 箸 菜 朱打家 右御膳撤 次吸物 蛤 見セ 肴

三方一ツ壱ツ宛 肴 松梅立ル 献上座ヨリ始ル 肴ヨリ納也 次各起座

御籍屋ニ茶向座刻計

一中門ヲ閉 表藩医前後ニ白幕ヲ張 執筆之座ニ毛氈ヲ敷 式ニ依テ二帖 前ニ長床ヲ置 東上北面也 祢之介 助筆之座ヘ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

二帖設之（一帖）執筆之後之方東上北面也東之二ノ間幕
（三帖）社切戸立帖ヲ蔽（四帖）休息備りて間ヨス火鉢菓酒
肴之種品ニ寄ノ（牛方）肴飯焼物ハ（ママ）
肴の品
右取合し設也
一執筆後見之義座席定中ニ出勤之事
一郡藉清書半分計出勤休息ニ座席院校合又ハ
出勤し上校合し
一清書未了ニ付出勤ニ藉刀祢越し人数ハ（仕丁）
沸各退下

即刻取引ケ夕飯業内有之各着集
一汁四菜焼物ニ而（ママ）鱠ハ（ママ）汁
一種魚椎ニ而（ママ）
肴魚洗肴之種数品ニ而
数量ニ応取引納ニ着座敷也

右享和二戌年二月　文化元子年二月　両度
御藉改之節座席衆仲間之日記也後日令議
書写之了
文化二年五月
註堅判

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

元治二乙丑年 六月 従倩斎殿 ～ 令借用写書 ～ 候様 ～

三手并西中ノ自前ヲ相定條々

西中ノ藏奉行勘定帳案以下覺悟

三手

三手并西中ゟ自前ゟ相定条々

元禄二庚年二月廿三日ゟ

一 自今以後書籍預り番年行事ゟ

預来ル所ゟ勿論ゟ

一 毎年正月十七日ゟ次ゟ頭人ゟ

其節必預ゟ

一 毎年三ゟ寄会ゟ

ゟ若失念有ゟ

張紙云

三ゟ之日次ゟ事ゟ元禄三年ゟ

雖被記宝暦三年ゟ

則東ゟ

寄会有ゟ時三ゟ西中ゟ

右三人頒学ヨリ西序被頒也

西中ノ

西中ノ

一 同十三庚辰年於西中ノ内ヨリ被定則

迎年ヲ行事依為今人宵会始ニテ道具ヲ

ニテ読事古法ニ上吾擬ノ為ニ今度為叡慮法通具

通吟味加修復年中行事ヲ相改営年行事ヲ除ク

従古法宵会始参ニテ朝餉後早ク相催真

先ヲ行事道具悉改若紛失ノ為ニ

下ノ衣源 附其旨ヲ勘申 旦又当年行事 読吟味

請取渡ニテ万一ニ紛失ノ為ニ

於此余ニ条 御祈禱講ニ修略ク

西中ノ

正徳四甲午年宵ノ内ヨリ宵会始ニテ相定条

一 御祈禱講ニ参詣ニ依テ後年宵元ヨリ

ニ参ル儀ニ為参事ニ附事

西中ノ

同六丙申年正月十七日西中ノ宵会始 同九日宵会ニ上被

相定条

一 二月十日若衆ニ中被差狂職ニ人ヲ職次第ニ著于一

方ニ上座但其次座ヲ初参方其次第ニ有

著座事

一 社司雖ニ著于一方ニ上座初参方出ル時於盡ニ礼ヲ

ニ為年老次第事

一 五十三歳ニ人ヲ其年ニ二月十一日以後ニ一方退座之儀ヲ

二月十日ニ後ニ為非衆ニ為閣振舞ニ書籍ニ為惣銭ヲ

宵会ヲ時ニ西中ヨリ為ニ二ツ被ル三ヲ宵会

一 年行事一兎物料之御祈禱條參會之事
為来戌斗向後不寄于有之五斗ニ被定事
一 自當年雖不執行御祈禱精進頭被勤人未出座之
ニ方ヲ二月十日勘定之節ニ方初冬ニ定之人ヲ可為随意
事
一 御祈禱講參之時献之儀法之儀無之定參
前事
同年二月十日西中ヨリ左種之
一 出座手限之儀唯今迄雖被限五十三歳向後ヲ五十五
歳ヨリ迄免ス事
一 初冬方向後一家ニ人ヲ二十歳迄ニ出座ヲ
祈禱講參會ニ而ハ其以後祈禱免ス會方ニ而
有出座但二十歳未滿之内ヲ可為勝ノ次第事
同年八月廿六日西中ヨリ參會之節左之通被定渡
一 九月十五日十六日兩式日恒例三ヶ
日共ニ祈禱講參會ニ而九月中旬迄
所ニ差支之日ハ閏合免角於拝殿
ヶ也執行之筈ニ候右恒例之參
右恒例之參會迄年ニ
一 御祈禱講參會ニ而ハ閏振無之
納米上ヶ向後參會ニ而年ニ二月十一日勘定之筈右
參會方之時ニハ西中ヨリ

一 肉桂ノ壁書ノ内雪踏草履ノ儀ハ遍執ノ三ケ条同前ノ
壁書ニ表ニ陳ル通リ中ニ置書ニ載ル事
私ニ此次ニ不書添ノ

一 茶頭其外不時ノ寄合ノ外行事頭人ハ私用ノ
行事中當番ノ奉行人ハ私用ノ
警公用等各別ノ用事ニ非ル断ノ儀ニ不及立候也
右ノ事

同年九月晦日於神前議所三ケ条
被相定条々

一 二月十日参會ヲ各別其外
寄合ノ節毎度參會ノ雪ノ上ノ中ノ
寄合ノ三ノ
同度寄合ノ

三ノ条并頭參集ノ儀ハ此方ノ寄合ノ
此通ノ儀ノ方ノ式度三ノ一同ニ被定置ノ事

一 表向社用ノ外隙入ノ此方

一 其身ノ方ノ論親類衆病気ノ
一 京都ノ遠所ノ此越ノ此方
一 故障又ハ忌年忘ノ
右ノ分ノ此外ノ被ノ其外ノ
ノ參集會ノ市ノ寄合ノ時ノ
此寄合ノ參集會ノ此方ノ式度目ノ寄合ニ一度ノ一揆
一 一揆ノ通可ノ
縦ノ三ノ寄合ノ
寄合ノ時三ノ

三手

一 雖為奉公人非番方之方ハ當參之席中ニ而同前
之儀ハ
一 毎度出參之節出免有之ハ評儀ニ而ハ致缺
衆評被定条

有之ニ付一社中ヨリ来何日迄ニ新銭一枚差出方ニ於衆中
限ニ節日為恒例三ケ度会所被相定候趣ニ而
吟味之上以三ケ年行事沙汰人会所ニ
而一度ニ百疋宛ニ而被相心得事

三ケ

同年十二月十日於講所三ケ度会之
一位階之儀精進頭以前ニ被申上ル
進記前ニ被帯往来面ニ上ケ田楽前ニ
事

西中

同七年寅年二月十七日寄合始ニ而西中ヨリ依定評被
相定条

一寄会始参会ニ而就立ニ儀先遣ル被定置候向ニ精
略就立ニ品被相改事

吸物ニ而ハ小漬ニ而飯参
右之通被相定之処

三ケ

同年二月廿八日於講所三ケ度会ニ前ニ依定評被
相定条

一被致借宅ニ輩被免于往来田楽
被免于田楽節ニ出免ニ儀其人数
元西中ニ而ハ被免于田楽ニ借宅ニ而
旦又東ニ而ハ疏出免ニ輩西中ニ
上更ニ西中ニ出免ニ而ハ東ニ
方ニ輩東ニ宅ニ来ル上ニ
ニ事ニ何ニ元ニ一方ニ先遣ニ
ニ而各別ニ指代ニ而ハ出免ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一 是迄西中ヨリ出産之人柬ヲ以宅被求候ハヽ今年参詣之節東ヨリ人帯ヨリ宅被求出候ハヽ右同前ニ一変ス事

同年二月廿三日参会之節伝最保被相定条々

一 十月廿日前ニ先達ヲ以宅ニ而伝最保被相定条々

但格代之儀初参并閼伽振舞ニ而ハ無之候ハヽ被差出ル上ハ更ニ出産之節

兼年行芝年行事勤定帳出事等觸
一及て有之候新講講不熟行
後れ参集れ候て被れ候ハ
同年三月七日釜頭へ節西中ゟ被相定条
一二十歳ゟ出座ゟ候而後ゟ一家一人ゟ
ゟ万嫡ゟ人ゟお定一度ゟ
但病気并困窮ゟ方ゟ共被
立万参ゟ事
同年三月七日於講所西中ゟ参舎ゟ
一向後十日十日精進頭人ゟ社職ゟ
座ゟ事　但社職ゟ人出席ゟ時ゟ精進次人一方ゟ
可為上座ゟ

一初参ゟ輩ゟ精進次人ゟ次座ゟ
但初参ゟ式相調ゟ後ゟ
同年三月晦日茶頭ゟ者西中ゟ被相定条
一正大之甚ゟ亟降甚若本挽器
権器等事四帝之間本殺父次跡孫紙屋捨三帝ゟ是ゟ三人等
器出ゟ者書ゟ候先年甚ゟ亟
被ゟ仍ゟ式度ゟ被相止ゟ
年或御書奉ゟ事ゟ何
十日朝ゟ至ゟ殿ゟお願ゟ
先年ゟ跡ゟ差捨ゟ下ゟ
出未座ゟ差捨ゟ

但社者兵後召出少官是迄格代差出ル格代ニ而上分
ハ同事ニ候ヘ共被相改青銅三拾疋宛為進上物差
出シ候ヘ共ニ而一変ニ付候ハ、其度ニ而渡ル也　扨参物ニ候被ニ而
元文五申年定ニ有之候
同九甲辰年三月廿日お講所西中ゟ参会ニ而被お定
條

一向後お祈禱講ニ而時ニ二月十日勤ニ而ハ前ゟ触万事
座ニ而ハ雑掌ゟ奉行ニ而お勤ニ而一変事
同年三月三日三ヶ参会ニ而被相定条
一社職ニ人数ニ而時不拘年齢ニ而職次ニ着座事
但年行事被相勤ニ而ハ役ニ而式お献其日
衆中接待ニ而ハ不及申ニ而ハ無之候ハ、委細ニ而ハ見日記

西中ゟ
一雷ゟ若宮退座ニ而ハ候ハ、参会ニ而ハ
歳迄ニ退座ニ而ハ候ハ、ニ而ハ
同年二月十日勤定ニ而西中ゟ被相定条
一精進斎宮ゟ御祈禱講ニ而ハ
座ニ而ニ而一変ニ事
同八癸丑年二月十日御勤定ニ而ハ
三ヶ相定条

一精進頭人中御供ニ而ハ候前ゟ被お定置ニ候ハ、
膳相調ニ而ハ候ハ、ニ而ハ
相立ニ而ハ候膳ニ而ハ
守ニ而ハ毎年寄会ニ而ハ時分被露ニ而ハ頭人中使ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一被申入方変定之事

同十九甲寅年二月十日西申ノ時

一同後年行事被勤ノ限三十三歳迄ニ被仰定候ニ付被勤三十四歳ニ而一方着座ノ一変之事

同二十七卯年二月晦日巻頭之節西申ノ刻ニ依在座被相定条

一朔日記ニ職方書記俄着座之人数許書載之年行事座着座行之ニ被仰除之無勤定帳ニ之行ル座乗奉行迄ニ銘々ニ被書野方一変之事

元文四己未年二月十七日於評議所西申ノ時ニ寄合繁ク会之節被相定条

一先年ノ行事ノ内勤ノ限ヲ被延三十三歳迄行ル

被相勤三十四歳ノ一方着座之方ヲ保十九寅年ヨリ被定候ニ付変迄年参会之時分出座安人ニ而ノ方今年ノ前ニ通三十歳迄ニ被勤三十一歳ノ一方着座ノ一変之事

清養追加三十一歳勤定ニ付名前有之人ヲ勤定ニ被仰渡行方直ニ着座ニ

右雖ノ申行事之ニ唯出退座ニ例ノ

同年三月十日於講所西申ノ刻ニ御祈禱講若勿論ニ祈禱講石執行時十日勤定ニ付年行事申ニ而ノ後一方ヲ社職ニ人ノ例一方ヲ年老方ニ被仰付若社職ニ人出勤安キ時ハ一方ヲ兎一方ヲ精進ノ人ニ而ノ時ハ一方ヲ兎一変之事

但社職之人精進致人不参之時者左之通
一被常住東西之嫡子参会二十歳以上之列ニ相立出勤之日者
之方先年被お定之左先年之例ニ
十月勤之之前式被立置ハ出勤
猥ニ相成ル間敷候尤被お定被お定
歳之人ニ而も参会無有之ハ罰之一銭
元文五庚申年二月六日於講所西中ニ参会之節被
相定条々
一西中ニ若病退座之儀ハ今迄雖為五十八歳ニ出席ハ出之人
ニ有之ル間敷候右二十歳ニ而
座ニ一変之事
一正六之始ニ而座ニ着之節ハ
元文六
寛保元辛酉年二月三日於講所三ヶ
條
一宮名之儀於三ヶ社許容之一社ニ
被申替ル儀有之ル間敷候尤為
自分名跡替ル儀ハ速ニ届出之為
毎度可被届候尤被申度ニ
同年二月十六日於講所西中ニ参会之節被相定条
一初参方田振舞相勤ル間敷候尤
お定ニ而ル間敷候一銭ニ
同二壬戌年三月六日於講所三ヶ参会之者相定条
一先達ニ日記ニ被記置之通三ヶ
朝義之有之ル間敷候一社ニ

乞外受届之神事者別而差支有之候ハヽ中途一應此届可有之候事

但受領之官名ニ而者不苦候得共参向之儀者無用候事

一 当宮名差支之時者一社ハ於御所ニ而西中ノ役相定候事

延享二乙丑年二月十日勘定ニ而

一 年行事并宵宮行事ニ而者不苦候得共参向後書籍ニ而者不苦候得共参向後書籍ニ而者不苦候得共参向後書籍

一 兎物料八木五斗外ニ今般為増料銀三拾匁可被遣事
以右之料物毎行事如何様ニ可被致沙汰哉之事
一 惣人書籍年行司人先年行事或年行司人并外ニ加人等ニお招被御出候節年行事
右当春ノ一社御倹約ニ付而候間一社相略シ候間右之通被加倹約可被為一変事

西中ノ

一 同九巳卯年正月九日寄合始ノ節西中ノ依衆評被
相定条
一 三十一歳ニ而掌向後退勤ニ有之ニ而も其年ニ寄合始ノ
可有着座旨一変ニ而事

西中ノ

一 明和四丁亥年二月十日勤定ニ而翁西中ノ依衆評被
定条

一 是迄六十歳ニ而掌勤定限退座雖為向後六十一歳勤定
之節出席限退席ニ而ニ為一変ニ而事

西中ノ

安永二癸巳年二月十日勤定ニ而翁西中ノ依衆評相
定条

一 正大ニ始ニ而被召出候参物青銅三枚ニ而
後可為無用旨一変ニ而事

西中ノ

安永三甲午年四月十七日参会ニ而翁被申定条

一 西中ノ儀肥参会ニ節席ニ而先年行事ニ而
年行事者上下差留ニ候雖為先格西中ノ許ニ而参会
候ニ付而ニ候ニ而も為遠慮ニ而ニ候ニ付而ニ
柿ニ而故存遠方ニ而ニ候ニ付而ニ為念ニ而ニ年
中行事ニ而ニ被記置可被為一変ニ而ニ書添ニ而ニ
安永五丙申年正月十七日寄合始ニ而ニ節西中ノ依衆評

一 初冬方殿畢而湯立ノ節於席退
可被退与一変之事

寛政九丁巳年正月十八日 齋舎始之節 西中ヨリ伺

祝相定条

一 九月参舎祝相催ハ歳之与毎年齋舎始之節ニ
事被露可有之与一変之事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

西中ヶ蔵奉行勘定帳案

西中ヶ若衆中年貢米納

社中年番中ヶ納ス

一 五石貳斗貳升壱合　何原町　善五郎　今孫市

一 馬目 五斗壱合　柊原　森五郎

一 壱石三斗三升四合　山ノ　次兵衛

一 七斗七升四合　中ノ　新四郎

一 四斗三升　江原　六助　今南ノ三郎次郎

一 馬目 九斗　同人　今桜ノ小兵衛門

一 九斗五升　〃　孫市

一 八斗六合　同人

一 貳斗八合　同人

一 四斗六合

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

一 貳斗五升六合
三ノ久 壱ヶ斗三升五才
一山 三升六合壱ヶ久才
合拾壱石九斗五升壱合斗ヶ三戈 三ノ
年号 義奉行 小山 同人
右之半紙竪帳ニ出ス 弥九郎
銀米納拂ヶ勘定 八左衛門
米納方
●勘定目録之案光
年号、一一西中ヶ若衆中 一一ノ
一拾壱石九斗五升壱合斗ヶ三戈
一判 田振舞
一日 但去十月ヶ當二月ヶ 何年ヶ貢米
一日 言ヶ書ヶ 園振舞
一日 初參方村付
判合、一一
弦ヲ、一一
惣合、一一
右之米拂方
一 先年行事誰、慶ス
一 當年行事誰、慶ス
一 欠米嵐喰ス
合一一

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

差引残
何ノ
銀納方

一
一
一
合
右之銀掛方
一
一 旬之ハ酒料利息ハ
入ル書出ス掛ル書ス
一
合

米何石掛代
去ル
残銀
東ヨリ返納米代、或ハ隙時ニ入

先ヲ行事誰殿ヨリ
精進頭人ヘ、廻ス
當ヲ行事誰ヘ廻ス

納ニ立用
残銀
外ニ

年号月日
上包
年号
西中ヨリ若衆中勘定惣目録 誰ノ
誰ノ

●社中年貢米請取之案
納西中ヨリ若衆中ヘ年貢米之事
合五石壱斗壱升壱合也
右ヲ馬目河原五反八畝廿歩ノ年貢米也
社中年

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

右所納皆済必仰
若衆中被奉行
年号月日　　某印
御花年番
誰之後
〃
〃
自社中田方吟味之節書出留
覧
一高
内

一荒草　下地若衆持
一高成五斗八升　　下地之分
一高弐斗弐升　　契約持
弐反弐斗弐升　　若衆持
一高六斗六合　　八雷坪
弐反三斗六合
一馬屋　高四石七斗五升
以上四ヶ所
若衆奉行
年号〃
〃
右者寛保三亥年八月　寛延二巳年六月両度差出ス

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

●元禄五申年十二月社中ヨリ差出ス夜書也ニ留ル

一弐拾弐石弐斗五升　西中ノ若衆中納方覚

慶長年中ノ高ヘ申レ入ル社中水帳ニ引合ノ通リ

一壱町反歩ハ　一弐進退

分米ナラシ定納拾石

右之地方先年従社僧ニ伝ハル処ニ地方夜進年貢米

従社中ニ差ヲ毎年拾石ツヽ収納ル処ニ元和二年同

所ニ地方五段ニ御縄入ル処ニ延年弐斗弐升ニ年貢米四石七斗七

升九合残ル五石貳斗弐升弐合ヲ社中ニ義ヲ毎

納之ヲ以上

元禄五申年十月　日

西ノ若衆中年行事

藤木數馬判

西池掃部判

市頼母判

山本三蔵判

一社中

肝煎申

荒草　水帳之高

五斗八升　代ヲ石役出ス

一弐石弐斗御棚指之高

高六斗四升六合

右ハ荒草田地　六番成ニ出ス

山田地二ツ分

川懸高役之事

高五石三斗五升九合宛 宗尊親王
右者荒草郷 馬目田施二ヶ所ノ

●樽代納之日支配米
供料
三斗貳升九合六夕宛 西ノ御前
右二ヶ所也
摠高日供料 四斗九升壱合
内
壱斗壱升五合
貳斗五合 六神人運送料 小頭
壱斗 御油料
壱斗貳合 紙立料
壱斗 御備料
壱斗 氏神社
五合
産幸追加之新儀講等之時者別
途望之
但氏神供備料壱斗ゟ領之
拂申候
屋居料者三ヶ度共ニ出之
巳午申酉 戌子 寅卯
右之年者當年之分也

五升 御油料
壱升貳合 紙立料
壱斗 御備料
壱斗 氏神社
五合
産幸追加之新儀講等之時者別途望之
但氏神供備料壱斗ゟ領之拂申候
屋居料者三ヶ度共ニ出之
巳午申酉 戌子 寅卯
右之年者當年之分也

未 戌丑辰

右之年者東之夜也之
祠官御備料也
一 弐拾六文六分

張紙弐
日供料 勘高四拾九斗七升
雷之夜也
判三斗 貳斗九合六勺六才
但庵居料不出年之
内
壱斗壱升

二ノ分小使ニ
為手当也

八升
五斗
五合三才 雷之夜也
右四人分為手当遣之
弐拾六文六分
八合
壱斗
右小使ニ為手当遣之
五合
是ハ毎年東之夜也

矢刀祢分
小祝出料
屋五料

祠官御供料
預紙弐料
氏神社出備料
小祝 禰宜
神人運送料

雷之夜也
精進頭人ハ

一判
壱斗

例祭講社名代執行手当
一弦 壹斗
一門 壹斗
一 壹斗五升
一 五升
外ニ八升参宮始勤宮杯日用代
一 七斗九升
但未年ヨリ六年ニ度ツヽ料ニ当ル
一 九斗

米支配年行事勤宮之書分ハ
書籍奉行中料

書籍奉行 元 壹人
藏奉行 壹人
庄屋給米
講所留主居

右之外共先年行事中ヨリ勤宮帳ニ出ス

奉行料
四中ヨリ麦石弁米
同 冬石弁米
社中ヨリ代新米
庄屋給米 壹斗弁
講所留主居給弁

右之外ニ出ス

精進頭人ヨリ祈祷料
雇女ヨリ下ス料
年行事兎物料

右之外当年行事中ヨリ勤宮帳ニ出ス

地方水帳

馬目新田　五段七畝弐歩
摠地坪合千六百貳拾坪
分米五石六斗壱升貳合
社中分歩渡五反四畝
分米四石七斗九升壱合

土免

一五畝十七歩　分米壱斗壱合　角河原分
船着上　反壱畝三歩　分米壱石三斗三升四合　左近太夫分
一六畝拾三歩　分米壱石三斗三升四合　権兵衛
分米七斗壱升四合　九郎兵衛分
次太郎

一四間九尺歩
　　分米四斗二升
一五十四歩
　　分米九斗
一五歩
　　分米八斗六合
一四間歩
　　分米六斗六合
一四間歩
　　分米六斗六合
一四間拾六歩
　　分米四斗五升五合

河原年貢分
中ノ新四郎

中之四郎分
六郎

孫市

木之元分百姓之年貢分
孫市

作之年貢分
孫市

元三河権守分大膳進分
孫市

孫市納之四合
　　壱石六斗七升五合
内
　　四斗五升　小使料ニ引
残壱石四斗二升五合納之也

中之四郎分
六郎

三ノ弥九郎

一高五斗八升
　　取九斗五升　元禄十二卯ノ五ノ三定
一高壱斗五升　八ツ五ノ三定
　　取壱斗壱升七合五ノ
　　内米壱合ノ五ノ
合　壱斗三升五ノ
右之内ニ社中急作料ニ納之

残五斗三合斗ノ五文
右之田地相給ノ分先
摠高 壱石七斗
内 壱石壱斗三升
四斗貳升
壱斗五升

山相土器田
一 高六斗六合
取三斗六合九ノ九文
相給証文左
摠高三石三斗六升六合
取壱石八斗五升

故貴顕家領
故成直家領
西中ノ若衆
小山
九郎右衛門

立ツ四ノ九

内
高六斗壱升壱ノ
取三斗四升壱合六ノ三文
高壱石四斗
取七斗八升三合九ノ七文
高八斗九升四合斗ノ
取四斗九升九合ノ壱文
高四斗六升
壱人分ニ当六升六合ツヽ右之内壱人分西中ノ
若衆へ納ル

勇令
氏緒ノ
故永顕ノ

念仏講中
七人取ノ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

張紙ニ云

上田及六町廿歩　高三石三斗六升六合

内

壱石三斗六升六合　拘頭一万平大夫保田ノ

六斗壱升壱ノ　成就院寿成ノ

四斗六升壱合七ノ　七人相合保在白頭

息道田寿

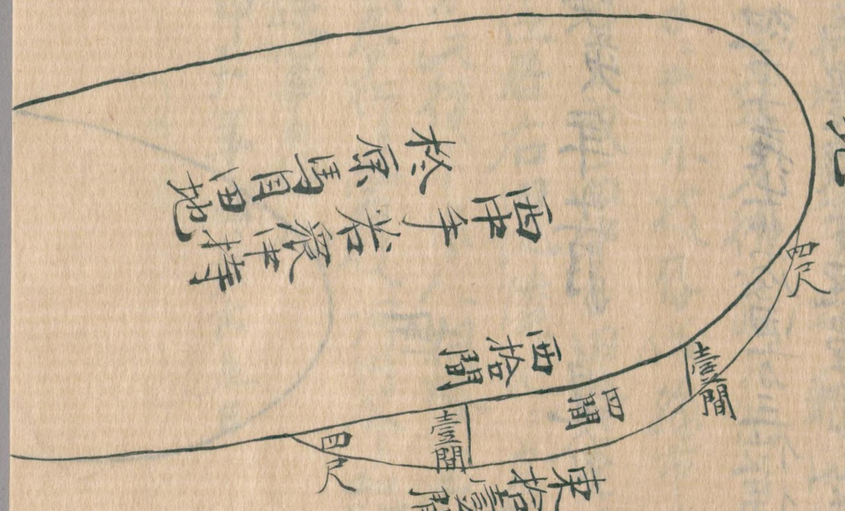
元宗西中ヨ

預百家陽等

寺地ノ

八斗九升四合貳ノ

文化元年四月従社中被渡馬目新開繪圖之写



国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

享和三癸亥年十月　見分

役社中依招紀季長出ル慶田方三位保廣代越後守保吉不参
越前守経為豊後守経豊名代ル社中ヘ参ル図而ル役申渡ス趣者
河原町孫市儀西中ヨリ若衆中持松原馬目田地東方南神
乃七坪四尺五寸
松原新開十壹反弐畝
七年弁十年代
壹弁ル合弐文五分

田方　年番
拾九間成掛り

義不願出為自分新開仕ル該相開ル分ヨリ
御吟味之処乙七坪四尺五寸許新開仕ル来當ヨリ冬ヨリ年貢
米壹弁ル合七文五分御藏ヘ納ル事
ル分傳西中ヨリ云不役存儀孫市為自分新開仕上納米ヲ
孫市ル役御年ル故西中ヨリ田地ヲ差儀ル分ヨリ
ヨリ田地下作仕居右田地隣地ニ而新開當ヨリ冬ヨリ上納米
役御年ル後下作人相替ル共右納米作人ヨリ相納ル事
故西中ヨリ藏奉行當役河内介紀季能登守補清兩人ル
此度役申達置ル由也
文化元甲子年閏十五日

右者故甲斐縣主之本自子息重ヲ借用写之

文政七甲申年六月

正四位下賀茂經千

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

832
97
305

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第29冊』　請求記号 832-305

ガラス使用